

赤木村大庄屋文書

自 安政五年

大庄屋

至 文久二年

安藤佐平 覚書

休 石 博 美

(會員・直川村上直見)

覚

江戸御到来有之候処

井伊掃部頭様

先月晦日被成御遠行候付

左之通階被仰出

一 鳴物 高声 遊獵

今二十八日ヨリ来月朔日迄 日数日

一 普請 家業之漁獵 御構無之

右之趣 無間違相心得 末々百姓共迄

可申聞候

此廻状令請印 早々順達

留村ヨリ吉野半太夫方江可相返候

以上

四月二十八日

解 読

江戸より御到来これあり候ところ

井伊掃部頭様 (江州・彦根三十五万石城主・大老・井伊

直弼(なおすけ)

先月晦日(三月三十一日)

御遠行(御せい去)なされ候につき

左の通り たしかに仰せ出され

一 鳴物(一般の歌舞音曲) 高声(かたごえ)

遊獵(狩をして遊ぶ)

今二十八日(四月二十八日)ヨリ来月朔日(五月一日)

迄 日数日

一 普請（建築・土木の工事） 家業の漁弾（魚・け

だものを取る）御構えこれなく

右の趣、間違なく相心得 末々百姓共迄

申し聞かすべく候

この廻状うけ印せしめ 早々順達（順次に送達する）

留村より吉野半太夫（総庄屋）へ相返すべく候

以上

四月二十八日（万延元年＝西暦一八六〇年）

山口藤左衛門

明石 大助

古賀五郎左衛門

参考資料
（町方郡方奉行）

彦根藩主・井伊掃部頭は、安政五年（一八五八）四月
十三代將軍徳川家定のとき大老となる。

当時、外には米国使節来朝して、通商条約を迫り、内
には鎖国攘夷の論が沸騰していたが、直弼時勢の推移を
考え、勅許をまたずして仮通商条約に調印した。

ここにおいて、世の非難を受けることとなった。

また、將軍家定は多病で嗣子がなく、継嗣の問題につ

いて二派に分れ、一つは水戸斉昭の子・慶喜と、一つは
紀伊宰相慶福をと両派互に争った。

家定のせい去するや、直弼独断をもって慶福を十四代
將軍（家茂）にしたので、世論は彼を憎むに至った。

時に、水戸藩士の有志が密かに上京して公家を動かし
て、密勅を水戸藩に賜わった。直弼は驚き、直ちに命令
して、それ等に関係した水戸藩士ならびに志士（吉田松
陰・橋本左内など）公家等を捕えて、処刑にした。

更に水戸斉昭・松平春嶽以下尾張・越前・土佐・宇和
島の諸藩主を厳科に処した。これを安政の大獄という。

ついに万延元年三月三日の登城の際、桜田門外におい
て、水戸浪士の襲うところとなり凶刃にたおれた。

時に四十六歳であった。

佐伯藩主十代毛利高翰（たかなか）は、越後・与板（
よいた）藩主井伊直朗（なおあき）の娘（勝子）を夫人
とした。佐伯藩は外様大名で二万石、井伊家は譜代大名
で二万石（江州彦根藩主井伊掃部頭の分家）で、代々徳
川家に仕えていた名門の家柄であった。

特に、彦根の井伊家は、大老という重職を背負ってい
た。